

平成7年度第1学期教育改善のための教養科目 授業担当教員へのアンケート調査の結果と分析

新潟大学大学教育開発研究センター

吉村尚久・小林昌二・長谷川 彰・竹内照雄
檀上篤徳・山崎一生・荻部恒徳・橋本 修

Questionnaire for the Teaching Staff Concerning Improvements in Class Quality and its Findings (A Preliminary Report)

Research Institute for Faculty Development, Niigata University

Takahisa Yoshimura, Shoji Kobayashi, Akira Hasegawa, Teruo Takeuchi, Atsunori Danjo,
Issei Yamasaki, Tsunenori Karibe and Osamu Hashimoto

The questionnaire was carried out to obtain the opinions of the teaching staff about the students' attitude toward and degree of understanding in class, and about the improvement of education. At the same time, a class evaluation taking students' opinions into account was conducted at the end of the first term in this school year. This report gave a brief summary of the findings and made some comments. Many of the staff pointed out that the necessary measures for effective good education were ①reducing class size, ②having students interact more with one another, ③showing enthusiasm and making more effort in teaching, generally. The problem in teaching within general education is how to cope with a wide variety of students.

Key words: Questionnaire, Teaching staff, Improvement in class quality, Faculty development, Staff development

1. まえがき

今年度全ての教養科目について実施した授業改善のための学生へのアンケート調査（学生による授業評価）と併行して教養科目担当教員全員にアンケート調査を行った。目的は教員からみた学生の履修状況と授業に係わる諸問題を把握すること及び授業の自己評価である。学生による授業評価の結果は本大学教育研究年報に別の報告として掲載したので参照いただきたい。学生による授業評価の授業科目ごとの集計結果をまとめ、それぞれの担当教員にそのデータを通知した後に、この教員へのアンケート調査票を送付し、学生による授業評価をどう捉えたかを結果に対する見解も含めて回

答してもらった。第1学期（前期）のみ調査の集計であるので、外国語科目など主に通年で実施している科目を担当している教員からの回答数は非常に少ない。従って、全体の取りまとめは第2学期（後期）・通年科目に係る回答も合わせて行う予定としている。

データの整理は竹内と企画室職員があたり、内容は筆者等で構成するプロジェクトチームで検討の上とりまとめたものである。

2. アンケート項目

平成6年度学年末に試行的に実施した「学生による授業評価」についての意見・活用の仕方及び授業を行っ

て日頃感じていること等について担当教員にアンケート調査を行った。その調査の概要は大学教育開発研究センターニュース第1号（平成7年7月）に掲載したとおりであるが、全て記述式で自由に意見を述べてもらったので、まとめるのに大変苦勞した。そこで、今回のアンケート調査は選択肢を設けマークシートで回答してもらい部分と自由に記述してもらい部分に分けて実施した。アンケート項目は別掲のとおりである。

3. アンケート調査の回答状況

このアンケート調査は、教養科目を担当している教員全てを対象に実施した。従って、同一科目を複数の教員で分担して実施しているものについても、それぞれの教員に調査を依頼した。

また、1人の教員が複数の科目を担当している場合は、それぞれの科目について回答してもらった。

アンケート調査の回答状況は別表（215ページ）のとおりである。

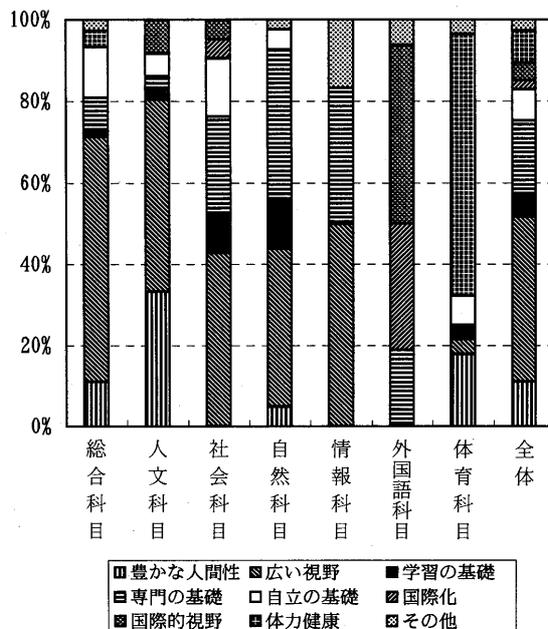
4. アンケート集計結果と分析

4.1. 「授業科目の性格」を担当者としてどのようにとらえているか

授業科目によってその性格が異なることは当然であり、外国語科目の「異文化理解及び国際化に必要」との回答率（合わせて75%）及び保健体育科目の「体力を回復し健康生活を営むのに必要」の回答率（64.3%）の高いことには性格の相違が良く表れている。この2教科を除くと、「視野を広め幅広く深い教養を培う科目」が約半数（48.4%）である。「大学で学習する上で及び専門科目を学習する上での必要な基礎科目」と規定する回答は自然科学系科目が高く約半数（48.8%）を占める。社会科学系科目もこの回答率が高く、専門の基礎科目と捉えている人が23.8%を占めている。「豊かな人間性を涵養する（人間形成になる）科目」と考えているのは人文科学系科目の33.3%が最も高く、社会科学系科目が0であったのとは対照的である。教養科目には専門の基礎科目として重要な科目もあり、その意義も大きいので、それらの科目は位置付けを

明確にして開講することが望まれる。情報処理科目の「その他」は“極めて専門性の強い科目”との回答であったが、教養科目として内容が適切かどうか検討の必要があろう。

図1 授業科目の性格



4.2. 「授業のクラス編成の仕方」について

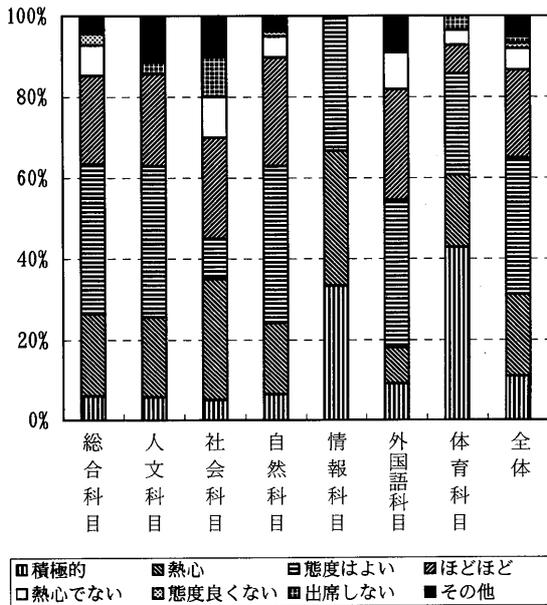
「特に問題がない」（選択肢①及び②の和）が全体平均で2/3（66.6%）であるが、講義科目では「聴講希望者が多く受講調整が大変」の占める割合が総合科目担当者の35.3%、人文科学系科目で25.7%、社会科学系科目で20.0%に達している。開講科目数の多い学系別でみると地理学系の75%、心理学系の42.9%、自然科学系総合科目の39.7%が「受講調整が大変」の割合が特に高い。これらの科目は“人気が高い”ことと思われるが、詳細に分析してみる必要があろう。

その他の意見としては、定員以上の聴講生が集まりオーバー分を全部切ることもできなくてある程度認めただので授業がやり難かった、受講学生数を減らして演習スタイルでの授業をやりたい等、受講生の数に関するものが多い。また、受講生のレベル(高校での履修・未履修を含む)の問題や学部指定のメリット・デメリットに関する意見もあった。

4.3. 「受講学生の受講態度・出席状況」について

必ずしも出席を取っていない講義科目でも「出席は良好で受講態度も良い」（選択肢①～③の和）の全体平均は約2/3（64.8%）であるが、社会科学系科目は1/2を切っている（45.0%）。しかし、成績評価が与えられなかった学生（聴講を途中でやめた学生）の割合が最も高い社会科学系科目の経済学系（28.1%）及び2番目に高い総合科目の人文科学系（25.3%）でも2/3の教員は出席良好と感じているし、3番目に高い人文科学系科目の哲学・思想史系（24.1%）では90%の教員が出席良好と感じている。また、学生アンケート回答率の最も低い政治学系（45.2%）では全教員が出席良好及びほぼ良好と回答している。これをみると、

図2 学生の受講態度・出席状況



これらの科目の教員は学生の出席状況はあまり気にしていないと見ることができる。成績評価が与えられなかった学生の最も少ない自然科学系科目の物理学系講義科目（6.2%、回答率は72.1%）で1/3の教員、2番目に少ない人文科学系科目の心理学系講義科目（6.8%、回答率67.6%）では2/7の教員が出席状況はほどほどであると回答している。一般に文科系講義科目の教員は出席状況を余り気にしていないと思われる。その他の意見として、出席している学生の受講態度は極めて良好であるとのコメントが目立った。今年度の

1年生は総じて真面目であるとの評価がある。

4.4. 「受講学生の理解度」について

全体平均で「良く理解及び概ね理解」（選択肢①と②の和）が44%であり、「理解している学生もいれば不十分な者もいる」が46.4%である。外国語科目が最も高く66.7%で、自然科学系科目が57.7%である。これは学生の学習状況の反映と考えられ、外国語や自然科学の分野で学習しないで理解しようと思うのが無理であることを示していると解釈できる。

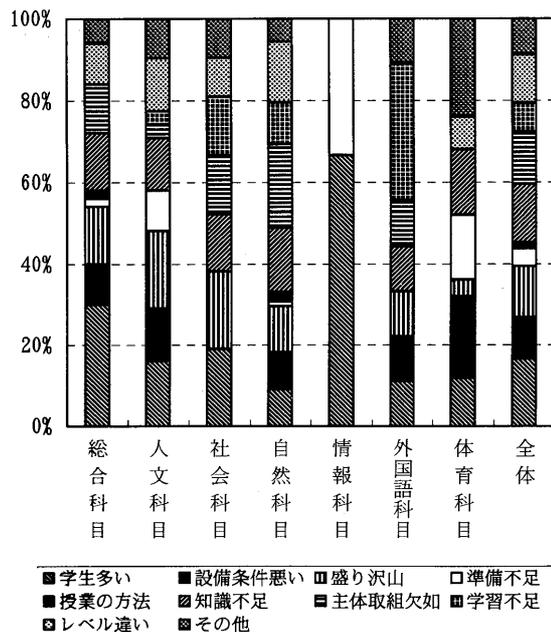
4.5. 「授業の進行状況・達成度」について

「概ね達成及び80%達成」（選択肢②及び③の和）が全体で78.6%、「60%達成」（選択肢④）が12.5%である。この結果から判断すると、一部を除き、進行状況・達成度は概ね順調であると考えることができよう。しかし、「半分もできなかった」（選択肢⑥）が外国語科目で16.7%に達しているのは考慮すべき問題である。

4.6. 「授業目標未達成の理由」について（複数回答可）

文科系科目では、受講学生が多すぎる（18.3%）、授業内容が盛り沢山過ぎ（21.7%）、学生の基礎知識不足（13.3%）を挙げる率が高い。理科系科目では、

図3 授業目標未達成の理由



総合科目で受講学生が多すぎる(22.4%)が目立つが、自然科学系科目では学生の主体的取り組みの欠如(23.1%) (特に実験科目で37%)、基礎知識不足(17.9%)、学生間のレベルの違い(16.7%)が高率となっている。情報処理科目でも受講生が多すぎるが高率である。外国語科目では学生の学習不足(25%)を挙げている。体育実技科目では設備・条件の不備(22.7%)とその他(27.3%)が多く、その内容は時間数不足、体力・運動経験の違い、学生の認識の相違などが挙げられている。

受講学生数と基礎知識不足・学生間レベルの相違は全体として検討すべき問題であろう。

4.7. 「授業環境」について (複数回答可)

全科目集計で半数近くの47.2%が特に問題はないと答えているが、2割近くが視聴覚関係の設備不良を挙げている。特に、人文科学系総合科目では2/3が、地理学系・心理学系・音楽系・フランス語が半数或いはそれ近くが設備不良と答えている。

その他の意見として、視聴覚教材が満足に使える教室が少ない、照明光源を明るくする、スクリーンとOHPの併用を可能にする(複数)、各教室にOHPを、液晶ビデオを複数台用意する、スクリーン・テレビ画面の大きさに比べて教室が大きすぎる、設備はよいが使いこなすまで時間がかかる、受講生数に見合った適正規模の教室の確保、冷房の調節ができるように、廊下の騒音に対する対策を、等がある。この2年間に教室の設備はかなり整備されたが、一層の改善を進める必要がある。なお、液晶ビデオは2台設置されているが宣伝が不足しているかもしれない。

実験科目では半数以上の55.6%が実験器具・設備充実の必要性を挙げている。体育実技科目でも2割以上が設備充実の必要性を感じている。

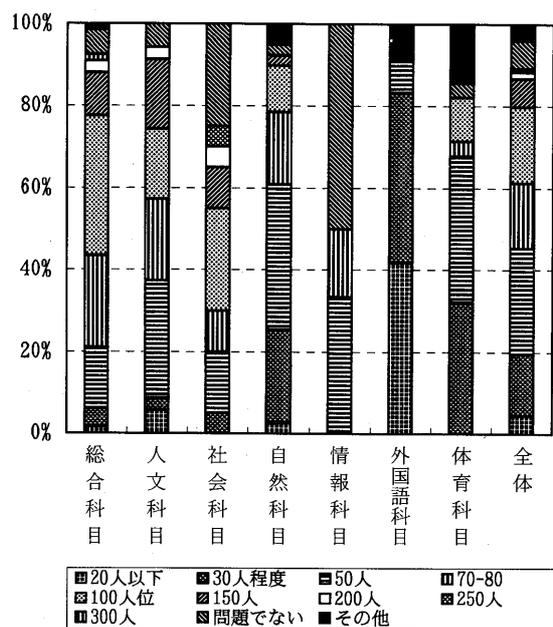
その他の意見として、受講学生全員が実験できるスペースが欲しい、器具が更新の時期にきている、コンピュータの台数を増やす、音声教材が使える程度の設備を、体育館に空調が必要、更衣室を改善し温水シャワーを、等があった。現在授業経費に消耗品経費しか計上していないが、実験・実技科目について設備充実費又は設備更新費を計上することを検討する必要がある。

4.8. 「クラスの受講学生数の適正規模」はどの程度が望ましいか

総合科目では100人もしくは70~80人の合計が56%である。人文科学系科目では50人が28.6%で70~80人が20%、社会科学系科目は100人が25%である。法学系、政治学系及び情報処理科目で「受講学生数は問題としない」が約40~100%を占めているのは他の科目群・学系に見られない特徴である。しかし、途中放棄者や不合格者の数の多いことと関係があるとも考えられるので、考える必要がある。自然科学系科目の講義では50人が39%、70~80人が28%、100人が16%となっており、数学系・化学系・生物学系は少ない方にシフトしている。実験科目では30人が56%、50人が30%となっている。外国語科目は20人及び30人がそれぞれ42%となっており、保健体育科目は30人が実技で41%、50人が講義・実技の両方合わせて36%となっている。

その他の意見として、理想的には講義科目でも50人程度とし、多人数の際は教室設備の充実が必要、250人は学生の反応をみるにはいかにも多すぎるのでせめて150人にして欲しい、少人数クラスにして対話形式の授業を取り入れる、などがあつた。授業効果をあげる上で適度な受講学生数が望ましいことは当然であるが、授業負担との関係もあり単純にはいかない問題である。

図4 受講学生の適正規模

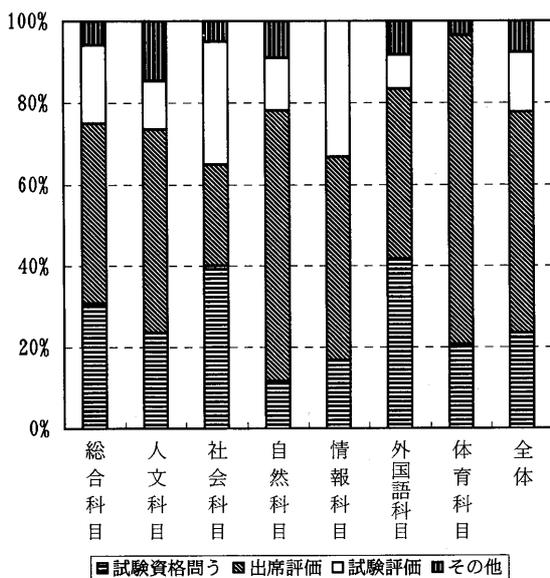


4.9. 「成績評価」についての質問

A. 「出席状況を評価に加味すること」について

「1/3以上欠席したら評価を受ける資格がない」は、外国語科目全体で41.7%、法学系で62.5%であるが、全体集計では23.4%に留まっている。「出席状況を評価に加える」は全体集計で54.4%であり、体育実技科目では77.3%、実験科目で60%に達する。一方、「出席状況は評価と無関係」は全体集計では14.5%に過ぎないが、政治学系・経済学系・美術系の科目では50%を越えており、出席は余り気にしていない様に見受けられ、項目4.3.と整合的である。その他の意見として、出席率が暗に反映するような評価方法を考えたい、実験科目では出席は最低条件である、科目の性格によって異なるので一概に言えない、などがあつた。

図5 出席状況を評価に加味するか



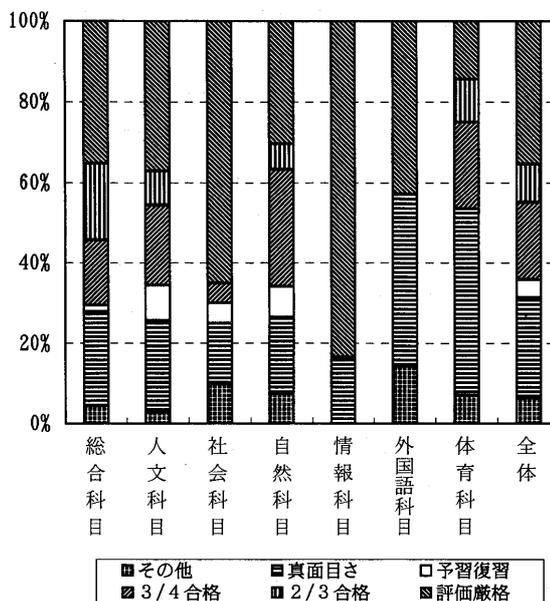
B. 「成績評価の望ましいあり方」について

「厳格に評価し、単位を取得できない者が出るのはやむを得ない」が全体集計で36%である。特に、社会科学系科目は65%、情報処理講義科目は100%、外国語科目は50%、心理学系科目は71%が「厳格な評価」が必要としている。一方、「真面目に授業を受けた者には単位を出した方がよい」は体育実技科目及び外国語科目で50%を占め、実験科目でも37%で率が高い。その他の項目は比較的集中度が低い、保健体育講義科目の50%及び自然科学講義科目での45%が「3/4以

上の受講生が合格できるような授業・試験をやるべき」と回答しており、学生のレベルに合わせた評価を考える意見もある。なお、別途調査したところによると、実際に不合格の評価が与えられた割合の高い科目学系は法学系、経済学系、政治学系、心理学系である。

その他の意見として、学生の学力に格差が甚だしいので学生の努力・個人の達成度で評価する、理解度に応じて授業・試験をやるべき、最低限度の理解度の基準を設ける、真面目に取り組んで一定の到達点に到達した者と怠けていて目標の水準に達しない者との間に厳然とした相違を示すことが必要、学ぶ意欲を欠いているし勉強方法を知らないので合格率など問題にできない、単位を簡単にとろうとする学生が多すぎる、授業科目の性格によって異なる、などの意見があつた。最近、学習歴を重視し、出口管理も含めて教育の質の向上が求められているので、この点からの検討も必要である。

図6 成績評価の望ましいあり方



4.10. 「授業を分かりやすくするための工夫」について (複数回答可、以下教員所属別の集計による)

全科目集計で回答の多かったのは、「教員が準備を良くして、最近のトピックなどを取り入れ、関心のある話題を材料にして講義・演習・実習をする」(44.8%)、「教員が授業のやり方をもっと工夫する」(44.3%)

「学生の疑問や感想などからレベルを把握する」(43.3%)である。上記3項目の他、医学部は「術語や数式を使わずに分かり易く講義する」(45.5%)が高い。これらの傾向と大きく異なるのは経済学部で「学生が授業準備を(予習復習等)をきちんとしてくることを強く課す」(75%)、「教員が一方的に講義するのではなく、学生が参加する形式にする」(50%)となっている。これらの結果をみると、一層の努力を払う必要があると認識している教員がかなりいると判断されるが、それ以外の項目への回答も高く、多岐にわたる試みが必要であると考えられる。

その他の意見として、知識の得られてきた過程を重要視して教える、前提としている勉強方法を学生にきちんと伝える、基本的な概念・術語の説明を工夫する、などがあつた。

4.11. 「受講学生の意見・反応のとらえ方」について (複数回答可)

全科目集計を見るとかなりのばらつきが見られるが、「学生の反応がないので困る」(25.6%)、「紙に書かせると良い」(26.6%)、「少人数にして質問に答えさせるとか発表させる」(22.2%)、「学生による授業評価の実施で十分」(22.2%)の4項目の回答率が高い。「学生の反応がないので困る」はこの設問の選択肢として若干異質であるが、複数回答であるので、現状として担当教員がどれくらい強く感じているかを質問したものである。

この項目への回答率は全体では25%程度でさほど高くないが、医学部は54.5%で非常に高い。歯学部・農学部・非常勤講師は「学生による授業評価で十分」が高く4割に近い。法学部・経済学部・医学部は「紙に書かせると良い」が他の学部と比較して極端に少なくなっている。

その他の意見として、毎回演習問題を出してレベルと反応をみる、授業中に質問をして理解程度を確認する、挙手によって反応を見る、などがあつた。

4.12. 「教育効果をあげるための方策」について (複数回答可)

全科目集計で約6割(59.6%)が「受講学生数を適

正規模にする」をあげている。「学生と積極的に対話する」(40.4%)、「教師が熱意を出し努力する」(32%)、「視聴覚教材が自由に使えるようにする」(25.6%)、「教育目標を明確にする」(24.6%)等も回答率が高い。受講学生数の適正化と教室の視聴覚設備の改善のほか、学生との双方向の営み及び担当教員の努力が必要と考えていると見て良からう。「TAの必要性」は実習・実験科目で高いのは当然であるが、経済学部でも5割となっている。「週複数回の授業を含むセメスターなどの学期制をとる」は全科目集計では4%程度であるが、法学部・経済学部では1/4以上の回答となっている。

その他の意見として、板書の方が脳を刺激する、受講する上での目的意識をしっかり持たせる、学生に合わせたテキストを作る、オフィスアワーを設ける、毎宿題(レポート)を課す、きちんと勉強しないと進級・卒業できないのが最も適切な方法、などがあつた。

4.13. 「シラバス(講義概要)の記載事項」について (複数回答可)

全科目集計で約5割が「現在のもので格別問題はない」としているが、「内容は固定的でなくてよい」(25.6%)、「概括的なものでよい」(22.7%)、「記載内容に即した文献を図書館に充実する」(19.2%)などの回答が高い。その他、法・経・医・工の学部では「なるべく詳しく書いた方がよい」が1/4~1/3程度、「聴講対象と条件を具体的に明記」が農学部で17%、「データベース化し、LANでアクセスできる」が歯学部で27%ある。結局、日本の現状では現行方式程度にして、講義内容がよく分かり、予習に役立てられるものであれば良いというのが全体的な意見と考えられる。

その他の意見として、専門用語が分かるくらいなら聴講しなくても良いので術語を用いた記載を避ける、評価基準・評価方法をできるだけ具体的に記す、スペースが狭いため記載ができず別にプリントを作って配布した、などがあつた。

4.14. 「今後検討すべき問題点・授業に活かすべき課題」について（複数回答可）

全科目集計で「多様な学生にどう対応するか」が最も高く41%、次いで「学生による授業評価は参考になる」が34%、「全学出動を徹底させる」が29%、「単位制の意味を徹底させ到達目標に達しないものは不合格にする」が18%である。その他、「履修科目が多すぎるので精選させきちんと勉強するよう指導する」が全体で13%、法学部で42%、工学部で35%である。また、「従来の学問体系区分による授業科目の再検討」が全体で13%、教育学部で38%、医学部で27%、農学部で17%となっている。

その他の意見として、講義を受ける意義の明確化、教育目標・科目間の関係を明らかにし授業選択のガイダンスの徹底、教員・学生両方がかみ合い進める方式の模索、通年4単位授業にすべき、演習・講義セット科目の設置、などがあった。

この項目では性質の異なる選択肢が一緒に盛り込まれているが、複数回答によってどのような問題・課題を重視しているかを調べるのが目的である。多様な学生にどう対応するかは大きな問題で、平成9年度入学生からは更に多様化してきて、深刻な問題となるので、目的別・レベル別など対応するコースの開設を検討する必要がある。また、テレビを見るようなつもりで授業を聞いて、予習復習を何もしないで理解できる訳がないので、教員・学生両者の努力が必要とされる。教員はこのアンケートによればかなり自覚していると判断できるので、学生に如何に勉強させるかが大きな課題で、「意義を理解させる」、「知的好奇心を刺激する」、「単位制の意味を徹底する」、「履修科目が多すぎるので制限する」等のことを検討する必要がある。授業担当の問題では全学出動をどう推進させるかが課題であるが、専門科目も含めてどれだけ授業負担をしているかも考慮すべき問題である。

4.15. 「学生に意欲を起こさせる授業のあり方」についての意見

（以下の質問は自由に意見を書いて貰ったので、内容は多岐にわたるが幾つかの課題に分けてまとめて、回答者の意見をそのまま掲載した。ただし、類似意見

は重複を避けた。従って、量的な関係は示していない。なお、長文の意見は大意を紹介するにとどめた。掲載順序には特に意味はない。最後に若干のコメントを加えた。）

①授業内容・テーマ

○学生自身の日常生活から起こる疑問や問題を題材にしていけば、学習への興味が湧き意欲が起こると思う。○学生に興味を持ってもらう内容とするよう努力する以外にない。○分かり易く、かつ学生が受け入れ易い内容とする。○予めテーマを与えて全体のディスカッションを行う。○分かる事と意欲が起こる事は別問題で、教養科目では面白かったと思っただけならば十分である。○自然科学では基礎からの積み重ねが必要なので、「これを知りたいのならどの様な基礎を必要とするか」を納得させる。

②授業の方法

○教員が一方的に講義するのではなく、学生の意見も聞きながら双方向の授業を実施する。○最近のトピックスや最新技術を時々引用すると興味を示す度合いが異なる。○身近な応用例をあげて解説する。○抽象概念をできるだけ身近な経験世界と関わらせて語る事が大切である。○講義内容の人生における意義や学生生活との関わりを感じさせるよう配慮している。○毎回メインテーマを設定し、話し方に工夫する。○学生自身に課題を考えさせて取り組ませると意識が高まり、効果が期待される。○できる限り多くの課題を与え、きちんと添削して返すことを繰り返す。○毎授業必ず小設問を出し、3回レポートを課した。この様に課題と設問を出すのが重要で、勉強になったとの感想が多い。○毎週レポートや小テストを強制的に課すことが必要。○相手によって変化できる柔軟性のある授業をする。シラバスで予め公約するのは問題である。○きちんと準備をして教える中で学ぶ面白さを知ってもらうのが第1であって、学生に迎合すべきでない。○複数教員による授業は一貫性が失われるので3人以下にするべきである。

③教室等の設備と受講生の人数

○多人数でもOHPやビデオが良く見えるような教室の設備が必要。○少人数で実習的要素を取り入れ

て経験させる授業。○人数を少なくし、対話や討論を軸にして講義を進める。視聴覚設備の充実。○人間的結びつきができるような少人数クラス編成。○意欲を起こさせるには多くの体験をさせることが必要で、そのための設備を充実させる。

④教員の意識と取り組み

○専ら教員の資質と努力による。○教員が学生を大事に思う意識を持つことにつきる。○教師の熱意と工夫が必要。○教員が熱意を持って工夫し、受けて良かったと思うような授業をやる。○教えたいことを明確にし、熱意を持つことが第一に必要。○教師の熱意と意欲が大切。熱意・意欲とは「何を学生に与えたいか」という教育目標が自覚されて初めて強く出てくる。○知的好奇心に訴えるような授業を行うのが根本。○教師の熱意に反応して独習する学生が出れば成功である。○教育目標を明示し、熱意と誠意を持って授業を行えば呼応する学生も出る。○何を教えるのかを明白にして、十分な準備をする。質を落とさずに分かり易い用語言葉使いをするよう努力する。○学生時代を振り返ると、教員の熱意・迫力・誠実さが伝わるような講義に感銘を受け、その道に入ってきた。十分に準備され精選された授業を与えることが必要。○自分の学問的経験を語り、体系的知識につなげる工夫をする。○学ぶ楽しさを良く知っている教員が目や輝かせて学生に話をしていく事が失ってはならない基本的態度であろう。○教員が問題意識をもって授業に臨み、いかに学生に伝えるかがポイントである。○意識改革が必要。○授業に取り組む熱意・姿勢が大切。○楽に単位が取れる科目があると、安易に考える学生が増えるので問題。○研究と同時に教育機関であるのだから双方を同等に扱うことを教員自身が工夫するべき。○「授業が命」くらいのつもりで教材研究に意を用いる。○「自分の専門を他学部の学生に聞かせれば良い」と言う安易な発想の授業は止めるべきだ。

⑤学生の意識と取り組み

○自分の将来を考えて何が必要か、どんな教養を身につけておくべきかを良く考えて教養科目を選択すると学生生活が楽しくなる。○勉強を全くせずに単位をもらおうと思っている一部の学生に問題がある。

○下調べをしてきて質疑・討論ができるように促す。○勉強が必要ということを理解させ、単位認定をもっと厳しくすることが必要。○「学びたい・知りたい」が勉強する動機であって欲しい。○新入生には個々の授業に入る前に内容のあるガイダンスを時間を取って行う。○必修科目の場合、何故必要なのかを当該学部の教員が担当者と連絡を取り徹底的にガイダンスする。

⑥その他

○従来のデンプリン以外に環境・平和・人権などを中心課題として設定した授業体系（コアカリキュラム）を検討することが必要。○今の学生では意欲を起こすのは無理である。いい方策があったら教えて欲しい。○短期・短時間集中。○高い授業料を払って卒業証書を取る事と認識している学生が多い状況を真剣に検討することが必要。○「卒業は大変」と言うシステムが必要。そのため「落後者」に対する十分なケアシステムを確立する。○履修科目が多すぎるので少なくして集中的学習をするようにする。

コメント

教員の意識についての意見が最も多かった。技術的な点についての指摘もあった。専門基礎的性格を持つ科目を別として、狭義の教養科目として非専門の学生に何を与えるか、何を伝えるかは非常に重要な要素である。その意味でも環境・平和・人権などを中心課題とする授業体系を検討せよとの意見は「教養教育改善検討ワーキング・グループ」で取り上げるべき課題である。教育目標を明確にした上で受講者によって話題を選ぶ必要があろう。学生が講義を聴講して面白いと感じ、自主的に勉強することも重要な要素であると思うが、聞き流しているだけでは本当の理解・興味を引き起こしたことになるまいであろう。何か感じ取るものが残ればそれで良いとする意見も有り得るが、6割以上の学生が自習として何もしない状況のもとで授業の内容・認識のプロセスや考え方を理解して、内在的な意欲を引き起こすのは困難である。従って、課題をこまめに与えて半ば強制的に学習させることが重要なポイントになると考えられる。

4.16. 「教材開発・授業方法の改善など、どのように工夫しているか」についての回答

①教材

○学生が身の回りのこと以外にリアリティーを感じられなくなっている傾向があるので、インタビュー等が載った新聞記事や体験談等の資料を用いて学生の想像力を喚起するようにしている。○タイムリーな話題と講義を関連させて関心を深めるよう心掛けている。○具体例を使って、イメージし易く分かり易い説明をしている。○できるだけ実物を見せる。○毎年新しいトピックを取り入れる。○最近のトピック特に県内で発生したことをできる限り取り上げ身近なものとなるよう努力している。○簡単な実験を見せながら授業を行っている。

視聴覚教材

○テレビ講座用に作成したビデオを活用している。○ビデオ・スライド・OHP用の教材を新しく作成し活用。○視聴覚教材作成のため日頃からビデオ録画して準備を進めている。○スライドの積極的利用。○自分の体験を基礎にしてできるだけ多くの資料を集めビデオ・OHPを活用して講義している。

プリント

○十分に準備したプリントを用意することが肝要。○今日的な話題・写真等を載せたプリントを配布している。○適当な枚数のプリント配布は有効と思う。

②学生の声・意見の聞き方

○毎回カードを配り質問意見を提出させ、翌週に回答する。○小テストや簡単なレポート提出時に意見を求め改善に役立てている。○毎時間質問・意見等を紙に書かせて提出させ、次週にプリントとして配布しているが、好評である。

③方法

○最初に開講の背景・講義の目的と概要を話し、「何を期待して受講したか」をアンケート質問する。○分かりやすく表現する。分かりやすく話すということは教師の理解度にも関係する。○常に学生に向かって話しかけ、プリントにメモさせるよう進めている。○視聴覚教材を併用しながら、レポートを各文節毎に行った。○テキストや資料を前もって配布し、理解度を高めるように工夫する。一方的講義を

避け質問時間を設ける。時々中間的な小テストを実施し学生の関心を刺激する。○新しい話題ごとに10分ぐらいの時間を与えて問題を解かせ、分からない者は学生同士で相談させる。○毎回簡単なレポートを書かせ添削して返す。○毎回演習問題を課し添削して返す。○教える内容を黒板に分かり易く大きく図示する。○毎回演習問題を出して学生の理解度レベルを把握しながら授業を進めている。○シラバスにこだわり過ぎず、ニュース・新聞等で話題になったことやホットな成果について解説している。○法則がどのような事実から発見されていったかの原点・プロセスを大切にしている。○実験中に一人一人に操作・手順等について質問し、科学的思考法・意味について理解させるよう努めている。

④予習・復習

○事前にテーマ・資料を提示して予習させる。○毎時間前回の復習を簡単に行い、授業のつながりを大切にしている。○新書版の紹介を行い、好きな本を選ばせ月に1冊の割りでレポートを課している。○夏休みに郷土の生い立ちを調べるレポートを課し、9月に発表させたが、育った土地なので興味を持って取り組み、講義の復習にもなった様に思う。

⑤新しい試み・要望

○コンピューター支援の演習システムの開発と導入。物理学や化学をベースとする基礎科学をいかに理解させるか術語や数式を少なくしてできるだけ平易にやる。○シーマル方式で質問・感想をたえず話せるようにして、すぐ次の時間に応答・改善できるようにした。質問が多くあり、正規の授業終了後補講で答えるコーナーを2回やった。○従来のデシプリンにこだわらない文科系向けの「自然科学実験」の様な授業は工夫できないか。○学生同士が対話できるような外国語の授業。

⑥その他

○内容が固定的になるので、過度に準備しないこと。○マルチメディア教材を作るので2年前から準備できるようにして欲しい。

コメント

講義の話題、項目の配列、教材の選び方、教育方法等について様々な工夫がみられる。授業が学生と

の双方向の営みで効果をあげることからすると、学生にどう参加させるかは重要な観点で、その点からの取り組みがかなり報告されている。授業実践・工夫のいくつかは本年報の授業実践・教材開発に関する報告として詳しく紹介されている。それらの報告を読んで個人的に参考とするのも当然であるが、組織的に生かす取り組みとしてのFD（ファカルティ・デベロップメント）活動が必要とされる。

4.17. 「学生による授業評価」についての意見

①必要性・参考になった点

○この種の試みは必要。○今後も定期的実施する。
○記述欄に具体的な指摘の記入があり参考になった。
○教える側の意図をもっと明確にする必要性を感じた。
○質問時間をもっと増やせとの要望のあったこと。
○授業の進行方式を省みる良い機会である。また、教師の意図と学生の反応（結果）とのズレが良く現れていて参考になる。○どの様な点に注意するとより理解させ得るか、どの様な形態の講義を希望しているかが分かり、どの様な考えを持っているかを知るのに役立った。
○書いてある内容には改善すべき示唆・励まされることが多い。
○授業方法の欠点が指摘されて参考になった。
○教材の提示法について要望が多いことが分かった。
○板書の仕方・テキストの使い方などの指摘は検討しなければならない。
○学生との認識のズレが発見できて参考になった。
○やる気でやっているかどうか良く分かり良かった。
○何に興味を持っているかが分かった。
○今後学生の希望を活かしていきたい。
○授業の締めくくりとして良いと思う。

②参考にならない点・問題点

○授業への取り組みがなんともいい加減なものかと再認識した。どれくらい真面目に答えているのか些か疑問。
○感想の中に授業形態で考えさせるものもあったが、「やや良」的評価であまり役立たない。
○いい加減にマークした回答と真面目に回答したものが同じ重みで評価されるのは悪い点である。
○高度すぎるとの意見が多かったが、学生に迎合してレベルは下げられない。
○一貫性がなく単純に記号だけでは判断できない。
○人気取りの手段とならない

ことを要望。
○人気取りになり無意味。社会人になった卒業生の授業評価なら意味があり重要。
○この様なアンケートを繰り返すと、教育は先生に依存するものと錯覚して自分から勉強しなくなる危険性が増大する。
○学生自身に対する項目を半分くらいまで増やす。
○高校までの授業のイメージを持っている1年生に評価させるのには無理がある。
○真面目に回答していない者が多く残念。
○「単位をくれた先生＝良い先生、単位をくれなかった先生＝悪い先生」といった類には授業評価をする資格はない。

③結果の取り扱い方・分析

○同じアンケートを数年続け変化をみてその原因を検討する。
○ある程度の傾向は掴めるが、大きな幅があるので真の授業評価となるかどうか疑問。少なくとも教員評価には結びつかない。
○文系学生と理系学生を分けて集計結果を出す。
○分析を正確に行い、学生の意見に迎合することの無い客観的評価が必要。
○結果を担当教員間で議論する場が無かったら意味がない。
○批判に対しては考えさせられる点もあるが、全員が熱意を持って記入した訳でないので再考の必要がある。
○出席の良い学生のみに回答させる。
○完全公表すべし。
○全学に公表すべきである。公開しなければ今後協力する意欲がなくなる。
○評価・意見が多岐に渡り何処をターゲットにして講義をするか難しい。
○結果の活かし方が不十分。
○理解できなかった点を来年度もっと分かりやすく講義する資料となる。
○学生の言動を通じて読みとるべきことは何かを見出すことが必要。
○この種の試みをどう受けとめるかも教員の意識である。
○教師からの学生批判もきちんと学生側に伝えることが必要。

④項目についての意見・改善点

○学生の自習時間を含める。
○期待内容、満足度、理解の深まった点、関心・興味の高まった点、改善点などをアンケートして聞いている。
○質問項目がやや抽象的で実態を正確に捉えているかどうか疑問。
感想や批判を書かせると80%は誠実な回答をするが、20%は不真面目な回答をする。
○調査の内容と形態そのものを革新する必要がある。
○手際よく短時間で終わるのが理想であるかのようなアンケート項目

があると実験科目本来の目的である工夫や失敗を克服することを否定しかねない。客観的評価なのか主観的評価なのか明示する必要がある。○回答用紙の設問の番号に何の質問かキーワードをつける。

⑤実施時期

○毎時間質問や感想を書かせているが反応はよい。授業評価も中間に小刻みにやった方がよい。○学期の中間に行い、翌日には結果が分かるようであれば改善に役立つ。○学期の最後にやるよりも中間がよい(複数)。

コメント

この種の試みが必要であり参考となるとする意見が多かったが、参考とならないとする意見や問題点の指摘もあった。また、アンケート項目についての意見や改善点も出された。学生の人気とりの手段と懸念する向きや学生に評価させるのは無理との指摘もあるが、結果をどう使うかは学生側だけでなく教員側の意識であることは指摘されるまでもないことであろう。また、最初の全面的な実施のため学生が戸惑っている面もあるので、第2学期・通年の結果もみて考える必要がある。学生の状況が教員に日常的に把握されていない様子が窺える意見もある。

授業評価アンケートの結果の活用法について色々な意見があるが、この種のアンケート調査を始めるにあたっての検討で、四つのことが合意されており、大学教育開発研究センターニュースで紹介されている。即ち、①教員評価とは目的が別で、教育改善の目的のみに使用する。②個々の授業科目の結果は担当教員のみ知らせ、教育改善の資料とする。③全体の傾向、各学系毎のデータは大学教育研究年報等に分析を加えて掲載することによって公表する。④結果を組織的に生かすために関連教科の教科集団で担当教員の合意のもとにデータ・意見等を持ち寄り、具体的方策を検討し、できるだけ公表する。この方針に基づいて物理学教科集団の教員による検討結果が本年報に掲載されている。各学系毎にこのような検討がなされることを期待しているが、提出された意見の中には誰かが分析・評価をしてくれるであろうという依存タイプが見受けられる。自分自身を含めた教員各自がやらなくては教育改善ができないとい

う意識が希薄のように感じる。こういう状況では、しかるべき組織を作って分析を行い、その分析結果に基づき具体的な検討課題を出してもらい、関係の科目群・学系に提示し検討を依頼する、該当の学系では関連の教員集団で検討し回答を出すというシステムを作る必要があるかも知れない。

4.18. 「その他大学における教育・教養科目のあり方など」についての意見

意見は多岐の問題にわたるが、いくつかの項目にまとめて大意を紹介することにする。

①理念と性格・授業の在り方

○他に振り回されない大学独自の理念の構築が重要。○広く深い教養があつて初めて優れた発想が生まれる。教員・学生とも重視することが必要。○視野を広め幅広い教養を培う科目(狭義の教養科目)と専門科目とは区別が必要。○オムニバス形式の授業はもっと体系的に編成し、担当教員数を減らす。○専門科目の入門は全て教養科目として受講者を少人数にして行う。○教養科目を撤廃し他学部の専門科目を聴講させればよい。

②授業担当

○全教員が均等に教養科目を担当するような措置が必要。○二重構造解消の徹底を。○学部・講座単位の分担責任を明確にする。○教育熱心でない教員が少なくない。熱心な教員にのみ負担が偏ることは深刻な問題。○ローテーション化すべきである。○臨床医学を担当しているので診療もあり、講義実習も毎日やっている。教養科目を担当し多忙のためコマ数を減らせとの主張があるが、抵抗を感じる。○全教員が教養科目に対する責任と意欲を持っていないければ衰退していく危険性を感じる。

③カリキュラム・時間割編成・履修の仕方

○1年から4年まで週何回かは専門外の科目を学ぶシステムにする。○卒業に必要な最低履修基準を撤廃する。○専門科目と教養科目の担当が重ならないような工夫が必要。各時間帯に授業科目を平均化する。○各科目群が平等に取れるように工夫する。○事前聴講登録制は疑問。○途中で放棄する学生を排除し、良い点が取れるまで何度でも再聴講できる

システムにする。

④今後開講すべき教養科目

○エネルギー問題・経済状況など社会に出て直接必要な科目。○国際化と環境問題、人間主義的分野など現代社会のニーズにあった科目。人類学や環境学。

⑤学期制

○セメスター制は良いが、7月末までの授業は実状に合わない。

⑥その他

○英語 I a 必修の代わりに他分野専門の教員が担当する「文献英語」を授業科目として出すことは本来の目的から逸脱しており反対。I a・I bの他に聴講させるのなら話は別である。○卒業証書だけを目的としている学生が増えている。勉強する気の無い学生は辞めてもらった方が良い。○不適格成績学生の放校制度（キックアウト）の導入。○月に1冊も

本を読まない学生を作り出している今の状況では改善に限界を感じる。

コメント

教養教育を重視し、基礎を含めた専門科目とは区別する考え方と専門科目の入門・基礎を教養科目としてやって、教養科目をやめれば良いとする全く反対の意見が出されている。これは以前から存在する異なった見解であるが、どの様な学生を世に送り出すのかという観点からの議論が必要である。全学出動をどう実質化させるかは授業実施の責任体制と合わせて重要な問題であるが、授業科目の性格や全学的に授業負担の偏在化を避ける点についても考慮すべきである。授業時間割の編成等については専門学部（科目）と教養科目との調整をもっと有機的に図る必要があろう。

平成7年度第1学期
教育改善のための教養科目授業担当教員へのアンケート調査回答状況

新潟大学大学教育開発研究センター

〔担当教員所属部局等別〕

区分	部局・科目群	配付数 (科目数)	回答数 (科目数)	回答率 (%)
専任教員	人文学部	44	36	81.8
	教育学部	47	32	68.1
	法学部	31	14	45.2
	経済学部	10	4	40.0
	理学部	72	62	86.1
	医学部	15	11	73.3
	歯学部	17	15	88.2
	工学部	40	26	65.0
	農学部	12	12	100.0
	保険管理センター	3	2	66.7
	大学院自然科学研究科	3	3	100.0
	積雪地域災害研究センター	4	3	75.0
	総合情報処理センター	1	1	100.0
	医療技術短期大学部	1	1	100.0
計	300	222	74.0	
非常勤講師	総合科目群	1	1	100.0
	人文科学科目群	5	4	80.0
	社会科学科目群	2	1	50.0
	自然科学科目群	5	5	100.0
	外国語科目群	3	3	100.0
	保健体育科目群	16	12	75.0
	日本語・日本事情	2	0	0.0
計	34	26	76.5	
合計	334	248	74.3	

〔科目群・学系別〕

科目群	学系	配付数 (科目数)	回答数 (科目数)	回答率 (%)
総合科目群	人文科学系	11	6	54.5
	社会科学系	7	4	57.1
	自然科学系 計	72 90	58 68	80.6 75.6
人文科学科目群	哲学・思想史系	10	10	100.0
	心理学系	7	7	100.0
	文学系	8	5	62.5
	歴史学系	9	9	100.0
	美術系	2	2	100.0
	音楽系	3	2	66.7
	その他 計	1 40	0 35	0.0 87.5
社会科学科目群	法学系	21	8	38.1
	政治学系	4	2	50.0
	経済学系	5	3	60.0
	社会学系	3	3	100.0
	地理学系 計	5 38	4 20	80.0 52.6
自然科学科目群	数学系	12	8	66.7
	統計学系	5	5	100.0
	物理学系	16	12	75.0
	化学系	24	22	91.7
	生物学系	22	18	81.8
	地学系 計	18 97	13 78	72.2 80.4
情報処理科目群	情報処理概論系	8	6	75.0
	計	8	6	75.0
外国語科目群	ドイツ語	4	4	100.0
	フランス語	2	2	100.0
	ロシア語	3	3	100.0
	中国語	3	3	100.0
	計	12	12	100.0
保健体育科目群	体育実技系	31	22	71.0
	体育講義系	9	6	66.7
	計	40	28	70.0
日本語・日本事情	日本語	4	0	0.0
	日本事情	5	1	20.0
	計	9	1	11.1
合計	計	334	248	74.3

〔授業形態別〕

授業形態	配付数 (科目数)	回答数 (科目数)	回答率 (%)
講義科目	245	183	74.7
演習科目	3	2	66.7
実験科目	35	27	77.1
情報処理実習科目	4	2	50.0
外国語科目	12	12	100.0
体育実技科目	31	22	71.0
日本語科目	4	0	0.0
計	334	248	74.3

教育改善のための授業担当教員へのアンケート

新潟大学大学教育開発研究センター

昨年度末に授業改善の資料とするため講義形式の教養科目を対象にして学生によるアンケートを試行的に実施しました。また、教養科目担当の教員にもアンケートを行い、意見を伺いました。これらの結果を踏まえ、今年度全ての教養科目を対象に「学生による授業評価」を行うことについて各学部意見を求め、全学教養教育委員会にて検討の結果、その実施が承認され、先般教養科目授業を担当される先生方にご協力をいただいで実施したところであります。

教育改善の検討に当たっては、授業について学生から意見を聴取すると同時に、担当されている教員がどうとらえているかを聞くことは、重要であると考えられますので、教養科目の授業についてアンケートをお願いすることにいたしました。アンケート項目として以下の質問項目を用意いたしました。アンケートの集計をコンピュータで処理するため回答はマークシート方式で行いますが、自由な意見も記述できるようそのための欄も設けました。なお、アンケート回答の内容は教育改善の目的以外には使用いたしません。本アンケート調査にご協力くださるようお願いいたします。

アンケート回答に当たって：

- (1) アンケートは科目群・学系別に集計しますので、複数の科目を担当されている場合は、それぞれの科目ごとに別葉で回答くださるようお願いいたします。
その場合、問12までの質問は個々の科目についてお聞きする事項ですので、それぞれの科目ごとに記入し、問13以降の質問は教養科目全般についてお聞きする事項のため1回だけ回答いただければよろしいので、いずれか1科目の回答用紙に記入してください。
- (2) アンケートの回答は記名でお願いいたします。マークシートの該当欄に授業科目名とお名前を記入願います。
- (3) アンケートの回答はマークシートの該当する項目の番号を「線」でマークします。その他に該当する場合は、その他の番号をマークしてからその下の記入欄に具体的内容を記入して下さい。
複数回答可の質問には、最大3つまで選択しマークすることができます。

問1. 担当されている教養科目は次のうちどれに属していますか。

- ①総合科目群 ②人文科学科目群 ③社会科学科目群 ④自然科学科目群 ⑤情報処理科目群 ⑥外国語科目群 ⑦保健体育科目群 ⑧日本語・日本事情

問2. 担当されている科目の授業形態は次のうちどれですか。

- ①講義 ②演習 ③実験 ④実習 ⑤実技

問3. 所属学部等は次のうちどこですか。学外非常勤講師の方は⑬に印をつけて下さい。

- ①人文学部 ②教育学部 ③法学部 ④経済学部 ⑤理学部 ⑥医学部及び附属病院 ⑦歯学部及び附属病院 ⑧工学部 ⑨農学部 ⑩自然科学研究科 ⑪積雪地域災害研究センター ⑫総合情報処理センター ⑬保健管理センター ⑭医療技術短期大学部 ⑮非常勤講師 ⑯その他（マークシートの記入欄に部局名を記入して下さい。）

問4. 担当されている授業科目の性格は、次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①豊かな人間性を涵養する（人間形成になる）教養科目 ②視野を広くし幅広く深い教養を培う科目 ③大学で学習をする上で必要な基礎科目 ④専門科目を学習する上で必要な基礎科目 ⑤自立した市民として健全な社会生活を営む上で必要な科目 ⑥異文化を理解し国際的な視野からものを見る

- ⑦国際化社会で活躍する上で必要な科目
⑧体力の回復を図り、健康な生活を営むのに必要な科目
⑨その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい）

問5. 授業のクラス編成についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①現行方式で特に問題ない ②学部指定がされており、格別問題はなかった ③聴講希望者が多く、受講調整が大変であった ④学部指定をして、受講者が同じ系統の学生で構成することが望ましい ⑤受講調整は事務的にやって欲しい（例えば、第2学期の予備登録制で行う） ⑥その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問6. 学生の受講態度・出席状況についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①出席は良好で、積極的に熱心に学習している ②出席は良好で、講義は熱心に受けている ③出席は良好で、受講態度は良い方である ④出席状況・受講態度ともほぼほどである ⑤出席はしているが、私語が多いなど熱心に聴講しているとは思われない ⑥受講態度が良くない ⑦聴講票だけ出して出席しない学生が多い ⑧その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問7. 受講学生の理解度についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①非常に良く理解している受講学生が多い ②概ね理解しているようである ③理解している学生もいれば不十分な者もいる ④総じて理解しているようには思えない ⑤殆ど理解していない学生が多い ⑥理解度の幅が極めて広く、学生によって異なる ⑦その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問8. 授業の進行状況・達成度についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①目標以上であった ②おおよそ達成された ③80%くらい達成された ④60%程度は達成された ⑤一部の学生については目標は達成された ⑥当初考えていたことの半分もできなかった ⑦試験の成績からみて適当であった ⑧その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問9. 思ったほど授業目標が達成できなかった場合、その理由は何であると思いませんか。（複数回答可）

- ①受講学生が多すぎる ②教室の設備・条件が悪い ③授業内容が盛り沢山過ぎた ④教員の準備不足 ⑤講義が難しいなど授業のやり方に問題があった ⑥学生の基礎知識不足 ⑦学生の主体的取り組みの欠如 ⑧学生の学習不足 ⑨学生間のレベルが違いすぎる ⑩その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問10. 授業環境についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選び下さい。（複数回答可）

- ①特に問題はない ②教室の視聴覚関係の設備が悪い ③教室に空調（冷暖房）が必要 ④体育館（グラウンド）を自由に使えるように ⑤マイク（拡声器）を備える ⑥図書設備（図書館との連携強化） ⑦実験（実習・実技）用具・設備の充実が必要 ⑧授業時間の配置に改善が必要である ⑨その他（マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。）

問11. クラスの受講学生の数はどれくらいが適切だと考えられませんか。

- ①20人以下 ②30人程度 ③50人程度 ④70～80人 ⑤100人位 ⑥150人位 ⑦200人位 ⑧250人位 ⑨300人位 ⑩数はあまり問題でない ⑪その他（マークシートの記入欄に具体的な数を記入して下さい。）

問12. 成績評価についてお尋ねします。

A. 出席状況を評価に加味することについてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われますか。

①1/3以上欠席した学生は試験を受ける(レポートを提出する)資格がない ②出席状況を評価に加え、評価することが必要である ③出席状況は評価とは無関係で、試験の点数やレポートに基づいて評価すれば良い ④その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

B. 成績評価の望ましい在り方についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われますか。

①シラバスに示した基準に基づき評価は厳格にし、単位を取得できない学生が出るのはやむを得ない ②2/3以上の受講学生が合格できるような授業・試験をやるべきである ③3/4以上の受講学生が合格できるような授業・試験をやるべきである ④予習復習をきちんとやってきていることを評価に加えるべきである ⑤真面目に授業を受けた学生には単位を出した方がよい ⑥その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問13. 未知の分野にも興味を示すとか、部分的に分からないところがあっても全体を把握できる学生が少なくなったと言われています。いきおい、授業を分かりやすくすることが避けられません。そのためにどの様なことが必要と考えますか。(複数回答可)

①学生の疑問や感想などからレベルを把握する ②術語(数式)を使わずに分かり易く講義する ③学生が授業準備(予習復習等)をきちんとしてくれることを強く課す ④教員が授業のやり方(板書の仕方、視聴覚教材の利用等を含め)をもっと工夫する ⑤教員が準備をよくして、最近のトピックなどを取り入れ、関心のある話題を材料にして講義(演習・実習)する ⑥教員が一方的に講義するのではなく、学生が参加する形式にする ⑦学生数が多いので、少人数のクラス編成にする ⑧学生の理解度が多様なので同レベルのクラス編成にする ⑨その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問14. 受講学生の意見の聞き方・反応のとりえ方についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選び下さい。(複数回答可)

①学生の反応がないので困る ②紙に書かせると質問等がよく出てくるので、毎時間出席と合わせて書かせるとよい ③受講学生を少人数にして質問に答えさせるとか発表させる ④5回に1回位を学生発表に当て、学習内容から予めテーマを与えて発表させる ⑤「学生による授業評価」の実施で十分である ⑥意見など特に聞かなくて良い ⑦その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問15. 教育効果をあげるにはどうするのが適切であると考えられますか。(複数回答可)

①受講学生数を適正規模にする ②視聴覚教材が自由に使えるようにする ③TAを含む授業補助者をおく ④学生のレベルを揃える ⑤教員間の連絡を密接にする(オムニバス形式の場合) ⑥毎時間宿題を出す(テストをやる) ⑦授業時間を短くし、週に複数回やる(Semester制などの学期制をとる) ⑧教師が熱意を出し努力する ⑨教育目標を明確にする ⑩学生と積極的に対話する ⑪その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問16. シラバス(講義概要)の記載事項についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選び下さい。(複数回答可)

①現在のもので格別問題はない ②何を目的とし、何をやるのかなるべく詳しく書いた方がよい ③予習ができるような内容にする(学習の指針となる)必要がある ④学生の状況により変化させる必要があるため、内容は固定的でなくてよ

い ⑤学生に対する要望も記入した方がよい ⑥聴講対象や受講条件を具体的に明記した方がよい(該当しない場合は受講拒否ができる) ⑦何をやるのか分かる程度の概括的なものでよい ⑧データベース化し、学内LANでアクセスできるようにする ⑨記載内容に即したテキスト・参考文献コーナーを図書館に充実する ⑩その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問17. 今後検討すべき問題点、授業の中に活かすべき点・課題等についてどのようにお考えですか。(複数回答可)

①「学生による授業評価」は改善すべき点が多くわかり、参考になる ②多様な学生にどう対応していくかが課題である ③授業負担は増えるが開講コマ数を増やさざるをえない ④全学出動を徹底させ、原則として教養科目を全教員が負担する ⑤単位制の意味を明らかにして、予習をしてくることを義務づけ、到達目標に達しない学生には単位を与えない ⑥学生が履修する科目が多すぎるので、精選させ、予習復習をきちんとやって学習効果をあげるよう指導する ⑦授業1コマの時間数(90分)は考え直した方がよい ⑧従来の学問体系(デンプリン)に基づいた授業科目の区分でよいのか検討の必要がある ⑨その他(マークシートの記入欄に具体的に記入して下さい。)

問18. 学生に意欲を起こさせる授業はどうあれば良いでしょうか。ご意見があればお聞かせ下さい。

問19. 授業の実施にあたり、教材の開発・授業方法の改善などで工夫していることがありましたら是非お聞かせ下さい。

問20. 「学生による授業評価」の質問項目・実施方法・参考になった点・その他、この種の試みについてご意見があれば記入下さい。

問21. その他、大学における教育、特に教養科目の在り方・実施の方法や体制及び時間割編成等について意見があれば、自由に指摘して下さい。また、このアンケートの設問に関係した補足意見があればお聞かせ下さい。